

NO.	団体名	パネル展示 タイトル	呼びかけ文
1	自由が丘産能短期大学 能率科	女性の能力開発のための大学教育の果たす役割	<p>～自由が丘産能短期大学に学ぶ、働く女性像～</p> <p>女性が活躍するには何が必要でしょうか。今年度、本学では女性活躍関連のコースを創設しました。従来から本学の通信教育課程の学生は、キャリアアップを考えたり、再就職を考えて働く30～40歳代の女性が多い傾向がありました。これらの特定のコースの学生の特性と、従来からの学生の特性を比較して、分析することなどを通じて、冒頭の問いへの回答と今後の課題をみつけて紹介します。</p>
2	静岡大学男女共同参画推進室	女性研究者研究活動支援事業(拠点型)～静岡県の研究機関の連携事業～	<p>～“しずおかレインボーネットワーク”～</p> <p>静岡大学は、平成25年度から平成27年度までを期間として文部科学省「女性研究者研究活動支援事業(拠点型)」に採択されたのをきっかけに、静岡県内12の連携機関と、研究者がライフイベントと研究を両立し、自らの能力を最大限発揮できるように、研究者支援策の普及に努めて参りました。</p> <p>定例交流会、セミナーによる意識啓発、育児・介護との両立支援策はもちろん、本事業の特徴は、理系分野ではいまだ数少ないといわれている女性研究者の研究能力向上を目指した「地域連携研究支援制度」にあります。女性研究者が研究代表者となった本学と連携機関の研究者による共同研究の支援や、論文投稿を支援する制度を創設し、運用しました。</p>
3	筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター ダイバーシティ部門	女子中高生の理系進路選択支援の取組みと課題～筑波大学とつくば女性研究者支援協議会の事例から～	<p>筑波大学では、平成25年度より科学技術振興機構の採択を受け、女子中高生の理系進路選択支援事業に取り組んできました。具体的には、夏に「リケジョサイエンス体験合宿」として、2泊3日の期間を通じて筑波大学の女性研究者との懇談会や、理系研究室での実験体験等を開催しました。また、冬には「リケジョサイエンス・カフェ」として、つくば地区の研究機関・企業の女性研究者との懇談会を開催してきました。これらの企画は多くの参加者から好評を博すことができましたが、一方でいくつかの課題も明らかになりました。本パネル展示では、こうした課題を含めたこれまでの取り組みを報告し、幅広い方との意見交換を図りたいと考えています。</p>
4	埼玉県男女共同参画推進センター	わたしの防災対策～男女共同参画の視点で考える防災対策～	<p>地震や台風など災害時には、自然現象の規模とともに、受け止める私たちの社会のあり方が、被害の大きさを変えています。これまでの大災害の経験から、災害時には、男女で異なる困難があることがわかっています。物資の備蓄や調達、避難所運営など、女性の困難について少しずつ意識されているものの、その対策については、地域によって様々です。パネルでは、いつ起こるかわからない災害に備え一人一人ができること、必要な意識などを取り上げています。「日頃できないことは、非常時にはできない」。男女共同参画の視点に立った防災対策について、一緒に考えてみましょう。ぜひ展示コーナーへお立ち寄りください。</p>

NO.	団体名	パネル展示 タイトル	呼びかけ文
5	クォータ制の実現 をめざす会	日本版「クォータ 制」への途 ～これ まで&これから～	<p>◇1999年3月、第一回全国一斉「女性と政治キャンペーン」街頭活動で発足。平等社会形成へ「女性の被選挙権」確立する日本版クォータ制の実現をめざしています。</p> <p>◇2000年「クォータ制ってなあに？」以降、「ノルウェー発フランス経由 日本？」「夜明けをめざして西から東へ」「地球で共生 すべては男女平等から」「男女共同参画とユニバーサルデザインはまちづくりの鍵」「日本はほんとうに先進国？」「あと11年で3割にするにはクォータ制」「日本版クォータ制～実現試案のための私案～」などで参加。</p> <p>◇2012年6月、9団体で「クォータ制を推進する会(赤松良子代表)」発足し新段階に突入、選挙制度改革に男女共同参画視点の法案可決めざしましょう！</p>
6	ねりまジェンダー 研究会	災害と女性	<p>～災害列島の男女が備えるべきは「男女共同参画」マインド！～</p> <p>毎日のように日本列島のどこかしらで発生する地震、火山噴火、洪水、竜巻などの自然災害。その度に、日頃の暮らしのなかでくすぶり続けているジェンダーに基づく諸問題がさまざまな姿で現れ、あらゆる世代の女性達を襲います。大自然の変動から発生する災害は防ぐことはできないけれど、避難生活や復興期の生活のなかで繰り返されるジェンダーによる人的災害は防ぐことができるはず。男女が互いの人権を尊重しながら暮らす当たり前の男女共同参画社会になればいいだけのことなのです。</p>
7	NPO法人 フォト ボイス・プロジェク ト	東日本大震災で被災した女性たちの 写真と「声」(フォト ボイス)	<p>～被災の経験と地域社会の課題を一撮る、語り合う、発信する～</p> <p>東日本大震災では、外部からおとずれたジャーナリストなどの写真や動画がネットを含めて数多く掲載されました。それらと異なり、フォトボイスは、女性たちが多様な視点で撮影し、被災各地の小グループの語り合いの中でメッセージ(声)をつくったもので、被災地内部から発信されたものです。これまで、フォトボイスのパネルの展示を海外も含めて被災地内外で展示し、防災や復興の課題などを来場者と共に考えることを呼びかけています。広くパネルの貸出しもしています。今回の展示でその一端を知っていただければ幸いです。</p>
8	図書館員のキャリ ア研究フォーラム	ジェンダーを探そう @Library Part2 ～ Look at Your Library with gender perspective ～	<p>ロンドン、アムステルダムから講師を呼び、「図書館員のキャリア研究フォーラム」主催で開催し2回の講演会、IFLA(国際図書館連盟)2015年アメリカ・コロパス大会の女性情報部門での発表、その大会に参加した世界の図書館員から集めた女性情報、大学図書館での理系女子支援事業、大学図書館と女性センターが連携した事例等々。</p> <p>わたしたちの実践事例をとおして、男女共同参画センターに加えて、公共・大学図書館でも、図書館員が「ジェンダー視点」をもった発信ができることを実感してください。</p>